

# コミュニティ・スクール通信@京都

## 京都で「コミュニティ・スクール推進フォーラム」が開催されました

昨年11月18日、左京区宝ヶ池の国立京都国際会議場で「コミュニティ・スクール推進フォーラム」が開催されました。

この事業は文部科学省が学校運営協議会の設置促進に向けて毎年開催しているもので、これまでも京都市の学校が、毎回実践発表をしてきましたが、今回は初めて地元・京都での開催となりました。

近畿を中心に参加者は504人。過去最高の参加者数だったようです。

今号では、フォーラムのコーディネーターも務められた玉川大学教職大学院教授で本市学校運営協議会・学校評価検証委員会の小松郁夫副委員長からいただいたアドバイスをご紹介します。

学校運営協議会関係者が京都に集う

参加者数は過去最高の五百人！

### 共に学ぶ「未来の学校」を創る

玉川大学教職大学院教授

京都市「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」副委員長 小松 郁夫

「コミュニティ・スクール推進フォーラム」は文部科学省が平成17年から毎年開催しているもので、私も講演や助言を頼まれ、よく参加させてもらっています。毎回、様々な事例を見聞きしますが、学校ごとに実に多様な形態があり、驚かされます。私自身は、学校運営協議会は、画一的なものではなく、百貨店のようにいろいろな内容があってよいと思っています。

さて、京都はボランティアなどで学校を応援する「支援型」の協議会が多いようですが、今後、「辛口の友人」として、どのような関係を築いていくか。私も京都の学校で委員をしておりますので、課題の一つと受け止めています。また12月には、コミュニティスクールの国際シンポジウム（米・英・韓と日本からは御所南小学校ほか1校）にも出席し、各国の事情を聞かしてもらいましたが、保護者・地域がなぜ関わるのか尋ねると、韓国の方が即座に「需要者サイドの改革」、つまり、教育を受ける立場からの改革だと答えられたのが印象的でした。京都も子どものためにという立場から実践されており、その成果を広く発信していただきたいと思います。



### ◆ワンポイント② 学校運営協議会と学校支援地域本部事業◆

今回は、学校運営協議会と学校支援地域本部事業の違いについて説明します。

「学校支援地域本部事業」…聞き慣れない名称だと思いますが、今年度から文部科学省が中学校区単位で展開している事業です。学校運営協議会と異なり法令上の根拠はありませんが、学校の応援団として地域の方々にボランティアで協力していただいております。京都市が独自に設置した学校運営協議会の「企画推進委員会（部会）」とよく似た内容です。この京都市の方式や東京の和田中学校の地域と連携した取組を参考にしたようです。

京都市では、現在、13中学校区において、地域ぐるみの小中一貫教育のさらなる充実を目指し、「小中支援地域ネット」という名称で、学校支援地域本部事業を活用した取組を進めております。

**南大内小学校（学校運営協議会設置日：平成18年12月13日，理事14名，企画推進委員32名）**

地域の高齢化と児童数の減少が進み、現在全学年が単級の中で、子どもたちに豊かで多様な人との関わりの場を持たせるために、学校・保護者・地域住民との協議を通して、学校運営や教育内容の改善に貢献することを目的し、6つの企画推進委員会で様々な活動を展開しています。

特徴的な取組は、企画推進委員会に広報部を設け、学校運営協議会の活動状況を学校主体ではなく、広報部を通じて地域へ発信していることです。また、地域や家庭での子どもの生活を話し合う生活自立部会なども設置しています。夏季休業中には、殆どの児童が、朝のラジオ体操をするようになりましたが、子どもたちだけでなく、保護者・地域の方・老人会の方々も参加されています。

理事会や企画推進委員会では、学校運営への応援の言葉だけでなく、地域での子どもの様子について辛口な話もされ（例えば、挨拶はできて会話にならない子どもが多い）、学校の教育実践の改善に役立てさせていただいています。

【岩永良徳会長から】

南大内小学校は、戦後の学制により、2つの学区が統合された経緯があり、これまでは両学区の旧自治体組織や取組は独立していたが、学校運営協議会の取組を通じ、子どもたちのために様々な活動を展開する中で、学校を核として旧学区の人的な交流が飛躍的に進みました。学校運営協議会を組織することによって、「地域の学校」という意味が真に理解できたと感じています。今後とも、学校に対して言うべきことはきちんと言いながら、子どもたちはもちろんのこと、先生方や保護者、地域の人間が元気になるような取組を進めていきたいと感じています。



**藤城小学校 やまざくらNET21（学校運営協議会設置日：平成17年10月28日，理事20名，企画推進委員38名）**

子どもたちが様々な人との関わりを通して、自分自身を誇りに思う気持ち、学校に対する愛情、保護者・地域への感謝の心を育てたいという願いのもとに学校運営協議会を設立しました。現在、4つの部会で様々な活動を展開していますが、特徴的な取組としては、

- ① 地域活動の様子や学校の取組の様子を掲載した地域コミュニティ誌「やまざくら通信」（毎月1日発行，地域全戸配布）を発行し、学校を核とした地域住民相互が共通認識を持ってもらえるよう努めています。
- ② 安心・安全な学校・地域づくりのために地域カラー（やまざくら色）やみまもり隊のロゴマークを決め、ボランティアの方々から自信と誇りを持って活動していただける環境づくりを進めています。
- ③ 子ども達に関係する地域や学校の行事の年間スケジュールの調整を行ない、子ども達が参加しやすいように工夫をしています。

【高橋猛会長から】

藤城小学校は昭和61年4月に藤ノ森小学校より独立開校した若い学校です。平成17年に創立20周年を迎えたとき、学区の20周年も地域を挙げて一緒に祝うために、PTA、各種団体からなる藤城小学校20周年記念事業委員会を設置し、「好きです藤城！ 広げようふれあい」をスローガンに多くの記念事業を行ないました。その時の事業を通して培われた地域全体の協力体制や共通理解をベースに今日の学校運営協議会があると思います。子どもたちが生き生きと活動できる環境の整備は、地域住民にとっても利益になると思います。学校・家庭・地域が三位一体となって学校を核とした地域づくりがますます進んでいくことを願っています。



ふれあい大掃除

**明德幼稚園 どんぐりーず（学校運営協議会設置日：平成19年11月14日，理事6名，企画推進委員9名）**

岩倉の豊かな自然のなか、地域に根ざした幼稚園を目指して、学校運営協議会を設置しました。

地域と幼稚園の結びつきは、これまではあまりありませんでしたが、学校運営協議会を設置し、教職員と保護者が一体となって様々な活動をする中で、子ども・保護者・地域・教職員がともに育ちあう幼稚園づくりを目指しています。

特徴的な取組として、学校運営協議会を設置してから、地域の方の協力が得られやすくなり、今では、幼稚園に隣接した田んぼをお借りし、子どもたちが泥んこになって遊んだり、竹藪へセタの笹を取りに行ったり等の体験もさせていただけるようになりました。また、お月見会や茶道等の体験を通して日本文化を子どもたちに伝えると同時に、地域の方にも楽しんでもらえるようにしたいと思います。

今年度は協議会が始めた古紙回収やフリーマーケットの取組でしたが次年度からはPTA活動へと移行し、今後もどのようなことができるのか智恵を出し合い進めていこうと思います。

【伊佐雅水会長から】

協議会発足から手探りの1年間が過ぎ、2年目は多角的な視野でより充実した取組に発展させていきたいと思っています。目指すは協議会の取組を通じて、子どもも親も先生も近所のおっちゃん、おばちゃんもみんなが心から笑い合えるコミュニティづくり。

そんなコミュニティでこそ未来への希望を持った子どもを育てることが出来ると信じて活動しています。



お月見会

**白河総合支援学校(平成20年10月18日発足)**

10月18日、白河総合支援学校に学校運営協議会が発足しました。

職業学科を開設して5年目を迎えた本校の学校運営協議会では、地域社会の中で一人の社会人として自立し、企業人として活躍していけるように、学校・保護者・企業そして地域の方々とともに「支援の形」を見つけていくことを目指しています。

学校運営協議会の理事会は、地域の方や保護者、学識経験者、そして企業の方で構成し、学校運営に関して様々な角度からの御意見を頂きながら、本校が進めるキャリア教育の視点に立った三つのプロジェクトを推進していきます。

また、生徒が運営するカフェ「ミルクウェイ」や、プールを改修し、生徒、保護者、教職員、地域の方、大学の先生が参画して、水辺と芝生の憩いの場を創設するエデュートープ(エデュケーションとピオトープを合わせた名称;写真右)があります。

お気軽にお立ち寄りください。



**蜂ヶ岡中学校(平成20年11月11日発足)**

創立60周年を迎えた蜂ヶ岡中学校に、新しく学校運営協議会が誕生しました。

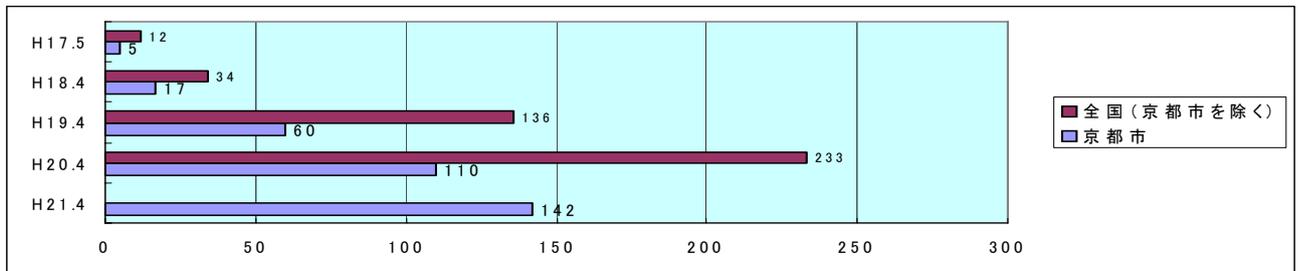
校務分掌にも「コミュニティ・スクール部」を起し、「学校運営協議会を中心とした地域ネットワークづくりと、環境を重視した地域の構築を進める」ことを基本方針としています。

生徒が育てたあじさいで商店街を彩る「あじさい祭」、環境の取組と文化祭を連動させ、幼児や小学生を招く「あじ祭ぶんぶんワールド」をはじめ環境を守り、環境を創り、環境とともに美しい心を培うとした「環境宣言」などを引き継ぐ「環境教育推進部会」や「学力向上推進部会」「保幼小中連携推進部会」の三つの企画推進部会を立ち上げ、今後は、将来の小中一貫学校化も見据えた取組を展開していきます。



データBOX

学校運営協議会設置校の推移



小中学校における学校運営協議会の実際は？ ～校長先生へのアンケート調査※から～

※ 平成20年9月実施。回答校：小学校90校、中学校13校

① 学校運営協議会委員(理事)は何人ですか？

| 委員数    | 1～5人 | 6～10人 | 11～15人 | 16人以上 |
|--------|------|-------|--------|-------|
| 小学校(校) | 4    | 42    | 34     | 10    |
| 中学校(校) | 0    | 7     | 2      | 4     |

② 学校運営協議会設置の効果(複数回答・上位7項目)

| 選択肢       | 小学校   | 中学校   |
|-----------|-------|-------|
| 地域への情報提供  | 81.3% | 81.8% |
| 特色ある学校づくり | 57.3% | 63.6% |
| 地域の協力     | 93.8% | 90.9% |
| 保護者の協力    | 49.0% | 63.6% |
| 地域の教育力の向上 | 52.1% | 54.5% |
| 教職員の意識改革  | 71.9% | 54.5% |
| 学校の活性化    | 70.8% | 81.8% |

③ 学校運営協議会で議題になる案件(複数回答・上位7項目)

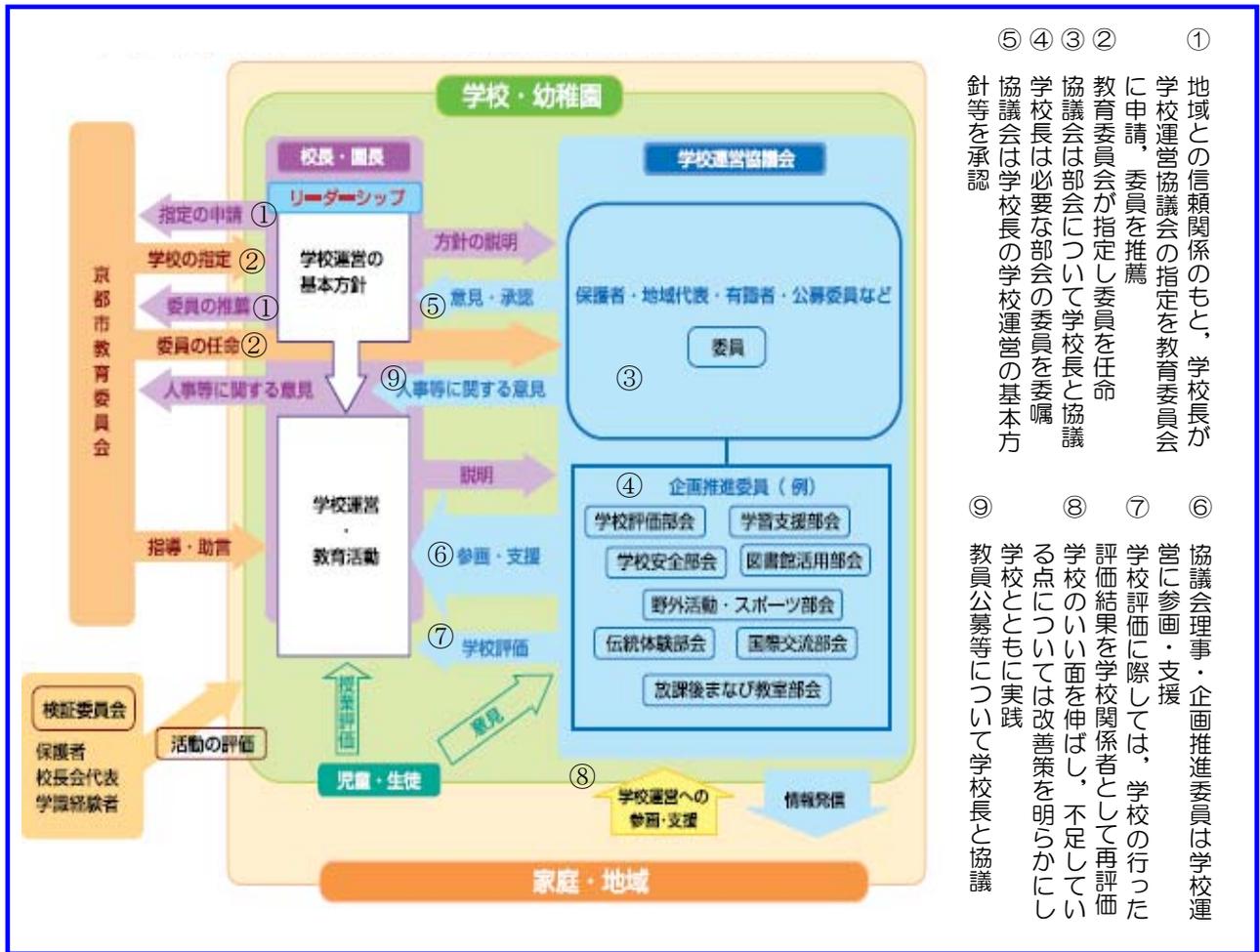
| 選択肢     | 小学校   | 中学校   |
|---------|-------|-------|
| 地域の人材活用 | 84.4% | 90.9% |
| 学校評価    | 60.4% | 54.5% |
| 学校行事    | 65.6% | 72.7% |
| 地域等の協力  | 90.6% | 100%  |
| 授業改善    | 14.6% | 9.1%  |
| 教育課程    | 19.8% | 36.4% |
| 学校経営    | 36.5% | 36.4% |

**学校運営協議会は全国で展開されている制度ですが、  
京都市では独自の要素を盛り込み、深化・発展させてきています。**

京都市には、「地域の子どもは地域で育む」と言う、明治期の番組小学校創設以来の伝統的な理念が息づいています。そして、その精神はこの学校運営協議会にも受け継がれています。

例えば、学校運営協議会の設置について法律（地方教育行政の組織と運営に関する法律）では、学校の教育方針を承認することや教員の人事に関して意見を述べることを規定していますが、京都市では、これだけでなく、規則でご意見番であり、応援団としての権能も加えています。具体的には、下の図にあるように学校運営協議会のもとに地域の実情に応じて部会を設置できるようにしており、地域の方々に企画推進委員として、学校運営に参画していただき、共に汗をかきながら子どもたちの学びと育ちを支援していただいています。

これはまさしく、地域ぐるみ・市民ぐるみの学校運営であり、平成の番組小学校づくりとも呼べるものです。先人の情熱を凌駕する人づくりに共に取り組んでいただきますようお願いします。



**編集後記**

ある校長先生が「学校運営協議会を設置するのは大きな変革のチャンスだ。何のために学校運営協議会を設置するのかという、明確なビジョンが学校には求められる」とおっしゃいました。何かを変えていく「Change」のためのツールとして、学校運営協議会の制度を戦略的に活用していただければ大変嬉しいことです。学校運営協議会の数ではなく、学校運営協議会で生み出された新たな「Change」こそが、全国に誇れることだと思っています。今回は、紙面を拡大して、第2号を発行させていただきました。多くの実践をより現場に密着した内容で編集してまいりますので、皆さんの学校の取組を、ぜひ教育委員会までお知らせください。

発行日：平成21年3月  
 発行者：京都市教育委員会学校指導課  
 京都市中京区寺町御池上る上本能寺前町  
 488番地  
 電話 222-3747 fax 231-3117  
[http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-2-9-0-0\\_13.html](http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-2-9-0-0_13.html)